

令和元年度 第1回 大井川水系流域委員会 議事要旨

■開催日時・場所

日 時：令和元年 12 月 2 日（月） 16：20～17：20

場 所：静岡県男女共同参画センター あざれあ 5 階 501 会議室

■出席者

土屋委員長、戸田副委員長、板井委員、大石委員、大久保委員、絹村委員、鈴木委員、竹内委員、村上委員、湯浅委員

■議事内容

（1）台風 19 号による影響について

- ・ 台風 19 号による流木や河道内植生への影響はあったのか。
⇒水位が水防団待機水位を超えない程度であったため、特に影響があるようなことはなかった。
- ・ 大井川流域の降雨がそれほど多くなかったという印象があるが、長島ダムの洪水調節容量だけで対応できたということか。
⇒長島ダムの上流に中部電力の井川ダム、畑薙第一ダムがあり、両ダムの水位が比較的下がった状況にあり、当時の空き容量の合計が長島ダムの洪水調節容量の約 4700 万 m^3 とほぼ同等であった。そのおかげで、長島ダムは $900m^3/s$ 流入で防災操作に入るが、それをすることは無かった。
- ・ 事前放流をして利水の容量を減らすといった対応はしたのか。
⇒現在、昨年の西日本豪雨を踏まえた事前放流の調整を関係機関と行っている。既得のかんがい用水、大井川水域調整協議会への説明がまだできていないため、今回は事前放流を実施していないが、今後も事前放流実施への取り組みを進めていく予定。

（2）大井川水系河川整備計画の点検について

- ・ 水防災教育や避難勧告等の情報について、流域内の外国人に向けて多言語対応を進めて欲しい。これは観光客対応にも繋がる。すべての内容を行う必要は無いが、危険度の高いものから優先的に進めて欲しい。
⇒関係機関と検討していきたい。
- ・ 大井川は砂州の複列化がひどく川が何本も別れている。川口発電所において発電用水を放水するが、夜間 8 時頃になると発電用水の放水量を減らす事によって複列化した細い濬筋は干上がってしまっている。そのため、濬筋を 1 本ないし 2 本にまとめるような河川整備をお願いしたい。

- ・大井川では、ここ 2 年間川口下流では濁水が原因で釣りがほとんどできておらず、漁協も中部電力と協議しているが抜本的な手段が見いだせていない。大井川が魚の住みにくい川に年々なっていることを認識しておいて頂きたい。
- ・河口にある野鳥公園は閑散として野鳥がいない。遡上してくる魚が少ないことが要因として挙げられる。一方で、近年、企業が焼津市に進出しており、伏流水が豊富であると聞いている。地下水は豊富であるが、魚の遡上に係わる水量は少ないのではないかと。
⇒滯筋が網状になるか 1 本になるかは、洪水の流量と川幅でおおよそ決まってしまうため、1 本にするのは現在の技術では難しい。ただ、網状河川の中でも、魚の棲みやすい川と棲みにくい川があり、砂州上で植物が繁茂し砂州が動きにくい状況下では魚の産卵床として適さず棲みにくいという知見はある。網状河川であることは大井川らしい河道の特性であると言える。そういった状況の中で総合土砂管理計画では単純に土砂のモニタリングだけでなく、環境についてもしっかりモニタリングする事としている。
⇒大井川では水辺の国勢調査を実施しており、魚類の産卵位置等を把握している。そのような情報を受けて、河床掘削する際にその産卵位置を除く等の配慮を行っている。また、河道整備検討会を立ち上げ、河口の河道掘削を行うにあたって、環境に配慮した掘削を行うこととしている。
⇒大井川では魚が減少しているというご意見に対して、色々な影響が絡まっていると思われるので実態を把握して、要因を分析し、対策に繋げられるようにして頂きたい。
- ・川に流す水が少ないというのは、上水や工業用水等に使用しており、水利用が高度に進んでいるためやむをえない状況である。ただ、正常流量を考えると、現在の川の状態を踏まえ水利用の効率化を考えないといけない。工業用水の地下水くみ上げにほとんど規制が無く、地下水位を下げてしまっている事や、最近では JR 東海のリニア新幹線工事により最上流の水が減るかもしれない等、大井川ではこのような水問題が複雑に絡み合っており、解決策が一筋縄ではいかない状況にあることは理解しているが、水が減少している現状を少しでも改善するような何らかの試みをお願いしたい。
⇒現状として、高度な水利用が進んでいるが、正常流量の確保したいところである。総合土砂管理の第一版は大井川下流部のみであるが、今後は上流部の状況も踏まえて、第二版を検討し、総合的な土砂の移動を踏まえた、治水、利水、環境を守れるような河川のあり方の検討を進めていきたいと考えている。
- ・平成 30 年や台風 19 号において長島ダムへの流入は大きくなかったという話であるが、ぜひシミュレーションされて、もし井川ダムなどが満水だったら長島ダムではこうなっていたはずだ、下流にはこのぐらいの水位になっていたはずだと示して欲しい。防災的な立場で言うと、700mm 降って大丈夫であったので、今回も大丈夫だろうという正常性バイアスの冗長が懸念されるのでこうなっていた可能性があるということを示して欲しい。
⇒仮に大井川に台風 19 号が直撃したらというシミュレーションを実施したところ、上流の発電ダムが満杯であるとし、台風 19 号の降雨を設定して流出解析した結果、長島ダムでは計画規模を越える 7600m³/s の最大流入量となり、異常洪水時防災操作に入り、下流

では、まだ県管理区間しか見ていないが、かなり大きな浸水被害が発生するという想定結果が出ている。結果がまとまり次第、示させていただく。

⇒仮に台風 19 号が最悪のコースを通った場合の影響についての検討は行っており、このことは地域住民だけではなく、県や中電等の管理者にも結果を知って頂くことが重要であると考えている。安倍川でも同様な整理をしているため、結果がまとまり次第、情報発信させて頂く。

⇒台風 19 号のインパクトが非常に強かったこともあり、大井川で発生した場合の影響等を検証し、その結果を一般の人に説明していくことは重要である。今回の台風で、ある場所では破堤情報が伝わらなかったという報道もされており、こういったことが無いように情報通達に係わる市町村との連携も密にさせていただくと良い。

- ・ ここ 3 年続けて大井川の中下流でのアユの流下仔魚調査を行っているが、昨年とれたのが 12 月中旬、一昨年は 12 月末頃だった。その結果、鮎の天然遡上が大きく減った。一番漁業に関係のある鮎が危機的な状況だと言うことを報告させて頂く。
- ・ P16 に記されている環境整備事業について、この場所へ人々が遊びに来た際に、雨が降って流量が増えるという住民用のアナウンスはどこが実施するのか決まっているのか。また、花壇等の河道内に設置するものに対して、河川に与える影響を考えたほうが良い。
⇒高水敷にある施設は、洪水時には施設を管理する側が撤去計画に従い撤去するよう指導している。また、出水時にはパトロールを行い、河道内に残っている人がいれば声掛けを実施している。公園を管理している市のほうでも公園の利用の抑制を行っている。

(3) 今後の進め方

- ・ 今回の点検結果を踏まえ、資料の修正及び状況の確認等はあるが、現行の河川整備計画の整備目標を変更する必要はないことに了承された

以上